

【特徴】

糖尿病内科・内分泌内科の研修では、患者の主訴、検査結果から、きめの細かい評価を行い、その診断・治療に至るプロセスを修得するとともに、いわゆる、内科的な総合診療を研修しつつ、糖尿病・内分泌の専門疾患の診療に携わっていくことを目標としている。最終目標は1年次終了後日本内科学会認定内科医、4年次終了後日本糖尿病学会専門医を修得する。

【研修目標】

1. 一般目標

- (1) 糖尿病を中心とした代謝内分泌疾患の病態を理解し、その診断が行える。
- (2) 急性および慢性合併症に対し、重症度、進行度の診断ができ、その治療が適切に行える。
- (3) 他科（眼科、産科、腎臓内科、整形外科、皮膚科など）との連携を円滑に保ちながら、患者を総合的に診療できる。
- (4) 看護師・栄養士・薬剤師などコメディカルとともに患者を中心としたチームを形成し、療養の指導教育が行える。
- (5) 患者の社会的・心理的背景を考慮した全人的な医療が行える。
- (6) 地域医療連携を行い、地域支援病院としての役割を遂行する。
- (7) 臨床研修の成果（症例報告を中心）を学会、研究会、論文に2つ以上を発表する。

2. 行動目標

日本糖尿病学会専門医カリキュラム[チェックリスト](#)に準ずる。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【研修プログラム】

1. 内容

- (1) レジデント（1-3年次）：研修のうちローテーション期間はプライマリーケアを中心とする総合診療科での研修を重視し、内科学会認定内科医の修得の資格を視野に入れての研修を行う。この間、9分野の症例を総合診療科病棟で受けもつことで経験できる。この間、初期診療チームとして糖尿病性ケトアシドーシスや高血糖性昏睡、重症低血糖症例を経験する。糖尿病内科・内分泌内科の疾患としては、総合診療科の研修と並行して、2型糖尿病を中心に、病歴、身体的所見の取り方から検査の組立、糖尿病の病態の診断を的確に行い、インスリン、インクレチンや薬物療法の治療を行う過程を研修する。その際、食事や運動療法などの日常生活の指導も実際に行えることを目標とする。また、2型以外に、1型糖尿病、思春期糖尿病、糖尿病合併妊娠といった特殊な糖尿病の管理、さらには糖尿病性壊疽や糖尿病性昏睡、手術時などの特殊管理に関しても研修する。外来診療では、総合診療科の初診外来で、鑑別診断を研鑽する。希望時は、2年次に合併症管理として、腎臓・高血圧内科、透析部をローテーションし、糖尿病性腎不全症例や、透析導入管理を経験し、循環器内科にて虚血性心疾患の診断と治療を経験し、神経内科にて脳血管障害患者の診断と治療の研鑽を行なう。外来診療では、希望時、フットケアの点から、皮膚科、形成外科での創傷、皮膚管理を研鑽する。内分泌代謝専門医の研修としては高脂血症、重度肥満や頻度の高い内分泌疾患（下垂体・甲状腺）に関しても診断、治療を修得することを目標とする。
- (2) シニアレジデント（4年次以降）：4年次以後には糖尿病内科・内分泌内科病棟での研修が中心で、2型以外に、1型糖尿病、思春期糖尿病、糖尿病合併妊娠といった特殊な糖尿病の管理、

さらには糖尿病性壊疽や糖尿病性昏睡、手術時などの特殊管理に関しても一人で対応できることを目標に研修する。外来診療も専門外来をもち、2型、1型、妊娠糖尿病、合併症管理の外来研修を行う。さらに、患者教育、コメディカルへの指導にもかかわっていく。患者指導では、心理学的アプローチ、行動科学的アプローチに関しても研修する。

- (3) 検査に関しても内分泌負荷試験から糖尿病合併症の関連検査（神経障害など）、腹部エコー、頸動脈エコー、腎ドップラーエコーを修得し、人工膵島によるインスリンランブテスト、遺伝子検査（臨床研究センター附属研究室にてRT-PCR、ELISA測定）なども修得することを目標とする。最後の2年間の目標は日本糖尿病学会研修指導医、日本内分泌学会内分泌代謝指導医の受験資格の取得を目標に、その資格を充足する症例の診療に当たるとともに、研修医、レジデントへの指導も行う。日本糖尿病学会での発表と、米国糖尿病学会での演題発表も行う。6年次では、希望者は関連施設（十三市民病院、住吉市民病院など）での研修も可能である。

	1年目（卒後3年目）	2年目（卒後4年目）	3年目（卒後5年目）	4年目（卒後6年目）
日本糖尿病学会専門医研修		1年次	2年次	3年次
レジデント	1年次	2年次	3年次	シニアレジデント 1年次
病棟研修	内科系専門科ローテート 認定内科医受験	糖尿病内科・ 内分泌内科	糖尿病内科・ 内分泌内科	糖尿病内科・ 内分泌内科 糖尿病学会専門医受験
外来研修	内科系専門科ローテート	糖尿病内科・ 内分泌内科	糖尿病内科・ 内分泌内科	糖尿病内科・ 内分泌内科
臨床検査	頸動脈エコー 運動負荷試験 腹部エコー 心エコー	頸動脈エコー 甲状腺エコー 運動負荷試験 腎エコー	頸動脈エコー 甲状腺エコー 運動負荷試験	頸動脈エコー 遺伝子検査 ELISA, PCR

2. 専門医取得に必要な条件

- (1) 最少年限：糖尿病専門医の認定申請には、認定内科医研修の課程終了後3年以上、認定教育施設（当センター、十三市民病院該当）において3年以上の糖尿病臨床研修が必要である。認定内科医はレジデントの1年終了時に受験できるため、最少年限としては後期研修4年終了時に受験できる。日本内分泌学会、内分泌代謝科専門医も同様に3年以上の内分泌臨床研修が必要である。
- (2) 履修内容：認定内科医として、内科の9分野（消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー・膠原病、感染症）、外科転科、救急、剖検から計18症例の病歴要約が必要である。
- (3) 内分泌代謝科専門医を申請するには下記の症例数が最低必要である。

間脳下垂体疾患 …………… 4例以上
 甲状腺疾患 …………… 7例以上
 副甲状腺疾患及びカルシウム代謝異常 …………… 3例以上
 副腎疾患 …………… 4例以上
 性腺疾患 …………… 1例以上
 糖尿病 …………… 5例以上
 高脂血症 …………… 3例以上

肥満症 ……………3例以上

- (4) 資格：糖尿病専門医申請時には認定内科医として認定されていなければならない。認定内科医の申請はレジデントの1年間終了時に認定内科医を受験できる。平成20年度以降の研修医では、研修終了に加え、総合診療科での1年でほぼ症例は達成できる。認定医申請時には糖尿病学会には継続3年以上入会歴が必要。糖尿病専門医研修開始時に研修同意書を日本糖尿病学会に提出することが必要である。

【見学等問い合わせ先】

糖尿病内科部長 細井 雅之
内分泌内科部長 金本 巨哲